

日本語の語彙化と他動詞誤用の考察

オハイオ州立大学
湯浅悦代

日本語学習者に自動詞と他動詞の使い分けが難しいことはよく指摘されている（小林 1996; 市川 1997; 中右 2005）。（1）のような間違えでは中右が主張するように明らかに自動詞と他動詞の使い分けそのものに問題がある。しかし（2）では母語話者であれば自動詞や受身を普通使うであろうが、他動詞の「見る」は適切な助詞と使われており、学習者が自動詞を他動詞と混同しているという訳ではなさそうである。

(1) *つけたり (⇒ついたり) 消えたりします。

*バラバラになるということがが (⇒を), 研究チームがを見つけました。

(2) *普通の時間に光にさらしても, 夜に決まった時間に光にさらしても, 細胞の発光を見ました (⇒発光が見えました/発光が見られました)。

Hinds (1986) は、Monane & Rogers (1977) に基づき、英語が person focus language であるのに対し日本語は situation focus language であり、それが (3) のような自動詞・他動詞の使い方を含む日本語と英語の違いを説明するとしている。

(3) お決まりですか (*決めましたか。)

叫び声がしたぞ。

腹が減った。

Have you decided yet?

I just heard shouting.

I am hungry.

確かに日本語は英語ほど person focus ではないと言えそうだが、(4) のように他動詞でも自動詞でも使える場合もある。更に (5) のように他動詞で文の座りが悪くなっている場合に、自動詞や受身を使う代わりに「ーている」の形を使うことで文の適格度があがることもある。

(4) 次は必ず時間に始めますから (⇔始まりますから)。

(5) *記者はこの記事で来年の選挙について書いた (⇒書いている)。

この場合他動詞である「書く」はそのままであるから、person focus の他動詞は日本語ではあまり使われないという説明だけではどうして「ーている」を使うことで適格度があがるのかが説明できない。

Jacobsen (1992) は、日本語の他動詞は多くの場合主語が意志を持った動作主であること、動作が時間の経過と変化を伴うことなどを動詞の意味として語彙化しており、その語彙化の傾向は英語などより強いと述べている。実際、(2) (5) などの他動詞の誤用では、他動詞を使うことによって動作主（(2) では研究者、(5) では記者）または動作主の意思が必要以上に強調され、それが文で本来強調されるべきこと（(2) では「細胞の発光」、(5) では「来年の選挙」）の邪魔になっているような印象を受ける。本稿では上級日本語学習者の作文の他動詞の誤用の例をもとに、正しい日本語の他動詞の使用には狭い意味での他動詞・自動詞の使い分けのみならず、日本語の語彙化のパターン、そして文での焦点の置き方に気をつけなければならないことを示す。他動詞では動作主の意思が強調されるという点から、(4) のように意思が文の焦点となる場合では日本語でも充分他動詞が使われること、また「ーている」が意思を表す動詞の他動性を低める効果があるということから、(5) のような他動詞の誤用が「ーている」の形をとることで矯正できることなども検証する。

参考文献

市川保子 (1997) 『日本語誤用辞典』 凡人社。

小林典子 (1996) 「相対自動詞による結果・状態の上限：日本語学習者の習得状況」 『文藝言語研究言語篇』 29、pp.151-165.

中右ゆうこ (2005) 「学習者は自動詞、他動詞を使い分けているのか」 南雅彦篇 『言語学と日本語教育 IV』 pp.151-161. 黒潮出版。

Hinds, John. (1986) *Situation vs. Person Focus*. Tokyo: Kuroshio.

Jacobsen, W. M. (1992) *The Transitive Structure of Events in Japanese*. Tokyo: Kuroshio.

Monane, Tazuko and Lawrence Rogers (1977) *Cognitive features of Japanese language and*

culture and their implications for language teaching. In John Hinds (Ed.), *Proceedings of the UH - HATJ Conference on Japanese Languages and Linguistics*, pp. 129-137.
Honolulu: University of Hawaii.

用語リスト

他動詞・自動詞 名詞を二つとり（～が～を）動作主の意思を表す動詞を他動詞と呼び、名詞をひとつだけとる動詞を自動詞と呼ぶ。これら他動詞、自動詞の中には、意味的に似ていて「つける・つく」「決める・決まる」のように、対をなすものもある。

語彙化 動詞にどのような意味要素が組み込まれるかということ。